

【概要】

本日(4月15日)午前10時15分頃、雑固体廃棄物焼却設備建屋2階にて、焼却設備B系の排ガス補助ブローア出口配管付近から水が滴下していることを協力企業作業員が発見しました。発見時の水溜まりは約0.1m×0.15m×深さ1mmで、室内に留まっており、10秒に1滴程度で滴下が継続している状態でした。滴下した水は拭き取り、滴下箇所には受けパンを設置しました。

滴下した水については測定結果がバックグラウンドと同等のため、汚染した水ではないと判断しています。(汚染バックグラウンド60cpm、線量率バックグラウンド0.09μSv/h)

当該滴下水については配管に巻いた保温材の内側から滴下していることから、配管が冷えたことを確認した後、保温材を外して原因を確認する予定です。ついては、本日午後0時45分、焼却炉B系への廃棄物投入を停止し設備を停止する操作を実施しました。

なお雑固体廃棄物焼却設備建屋排気筒ガスモニタ・ダストモニタ指示値や、モニタリングポスト指示値、発電所敷地境界・構内ダストモニタ指示値、構内線量表示器指示値に有意な変動はなく、環境への影響はないと考えております。なお、焼却設備A系は焼却運転を継続しております。

【時系列】(4月15日)

- 午前10時15分頃 協力企業委託員が水の滴下を発見
- 午前10時54分頃 モニタリングポスト、敷地境界連続ダストモニタ、構内線量表示器等の異常なし確認
- 午前11時10分頃 焼却炉排気筒モニタ、ダストモニタの異常なし確認
- 午前11時39分頃 滴下した水を測定した結果、バックグラウンドと同等であることから、汚染した水でないことを確認
- 午後0時45分～ 廃棄物投入停止(焼却炉B系停止工程へ)

雑固体廃棄物焼却設備

